

# 下野市立南河内第二中学校

## 1 学校課題

### 学び合い、より深い学びを目指した授業の工夫 ～主体的・対話的学びを通して～

## 2 研究計画

### (1) 研究のねらい

各教科とも学び合いを通してより深い学びが実現できるよう授業研究や授業改善に努めていく。そのためには、教師がねらいや学習課題に応じて、どのような学習形態で授業を行ったらよいか、また、深い学びにつなげるためには、導入をどのように工夫したらよいか、更に「振り返り」をどのように次につなげるかについて、教科毎に研究する必要があると考え、この研究主題を設定した。

### (2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

自ら進んで学び、互いに伝え合い深め合いながら、ねばり強く追究する生徒

### (3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ①ねらいの明確化・課題設定の工夫
- ②深い学びにつながる学習形態や指導方法の工夫
- ③振り返り（ねらいに対する振り返り・自己評価や相互評価）の研究と実践

### (4) 研究方法

- ①授業の導入で「何ができたか」を教師と生徒が共有する。また、学ぶ意欲を高める教材開発（期待が高まる課題づくり）や課題提示（学びの必然性が高まる課題づくり）を工夫する。
- ②各教科で單元ごとの目標を踏まえ課題設定を行うとともに、有効と思われる授業形態（探究型や討論型）や指導方法等を考える。また、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、「深い学び」が実現できるような資料の提示・ゆさぶりの発問を検討する。
- ③「振り返り（まとめ）」の時間を確保することで、学びの達成感や新たな課題を見いだす力の育成につなげる。また、新たな課題への意欲につなげる学びの修正ができる振り返り等を通して生徒の実態を分析し、言語活動の質の向上に努める。

### (5) 研究手順

- ① 4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定  
評価計画・指導計画・学習課題設定についての検討  
4月18日 全国学力学習状況調査実施（3年）  
" とちぎっ子学習状況調査実施（2年）  
" 教研式標準学力検査（1年）
- ② 7月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析  
各教科で評価計画及び指導計画について検討
- ② 10月 全国学力学習状況調査の分析  
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討
- ④ 『言語活動』に関する研究授業・授業研究会の実施  
9月 S&U コラボ事業（数学・国語）・要請訪問（音楽）  
11月 道徳（要請訪問） ※学活と道徳を隔年で実施。研究テーマによっては、変更あり。
- ⑤ 12月 教科部会で研究報告の作成  
\*前期（7月）・後期（11月）（1月）に道徳を語る会を実施

## 3 研究内容

- (1) 「ねらいや目標に合わせ、どのように課題を設定し、かつ学習形態を工夫したか」
  - ・個人から班という学習形態を用いて、他人の意見も得られるよう工夫した。（国語）
  - ・生徒の興味・関心や疑問から学習課題を設定し、教科書だけでなくインターネット等から得た最新の情報を資料として提示することで、生徒の興味・関心を高める工夫を行った。学習形態では、毎時間におけるグループ学習の位置付けや発表・討論の場を増やすよう心がけた。（社会）
  - ・「何をするか」「最終的にどうなれば良いか」といった視点から分かりやすい学習課題を設定したり、習熟度が違っていても取り組める課題を設定したりするよう心がけた。（数学）

- ・生徒が「振り返り」で記載した内容を基にねらいや目標を設定するようにし、日常生活で興味をもった事柄を授業の内容に関連づけて捉える場面を設定した。(理科)
- ・表現活動や創作活動を目標に設定し、合唱におけるリーダーの育成を意識して授業を行った。パソコンを用いた創作活動を実施したりした。(音楽)
- ・複合的な題材を制作することによって生徒の得意分野を生かせるよう課題の設定を工夫した。個人での制作だけでなく、グループ活動を通して、作品と向き合い、各自が思い思いに意見や感じ取ったことを発表し合う場を設けた。(美術)
- ・生徒が個々のレベルに応じて個人内成長を意識した課題が設定できるよう配慮した。学習形態としては、知識を伝える際は一斉指導で、技術を習得する場面ではペアやグループで、また、生徒が部活動等で専門的な技能を有する場合は、指導的立場に立って活動できるよう工夫した。(保健体育)
- ・課題設定については、身近な事柄や実生活と結び付けて考えられるよう配慮した。プログラミング学習の課題解決的な場面においてはグループ学習を取り入れ、生徒が互いに協力し、アドバイスし合いながら課題を解決するとともに、学習したことが生活の中でどのように使われているかを考えさせるようにした。(技術)
- ・教科書の内容以外に専門家の話を聞く等の事前学習を取り入れたことで、自己の課題を設定し、その解決に前向きに取り組めるよう配慮した。(家庭)
- ・課題設定においては、文法の定着だけでなく言語の使用場面も意識して行い、英語で自分の気持ちや考えを伝え合う楽しさが実感できるよう配慮した。また、レベル別の課題を設定し、生徒が自らの意欲・能力に応じて力を伸ばせるよう工夫した。学習形態においては、ペアやグループ活動を取り入れ、いずれもスモールリーダーを選出し、互いに助け合いながら活動に取り組めるよう工夫した。(英語)

(2) 「深い学びにつながるため、導入や発問をどのように工夫したか」

- ① 導入では、ICT 機器を用いて映像や実物を活用し、生徒の興味・関心を高めたり、疑問を持たせたりした。また、既存の知識や経験を基に考え、主体的に授業に参加できるよう工夫した。
- ② 導入段階で、既存の知識をマッピングし、授業を通して学んだことを更に朱書きで書き加えることで学びの経過や足跡を残せるよう工夫した。
- ③ 発問については、与えられた情報を活用し生徒自ら考え答えを導き出せるよう、思考を促す発問を多く取り入れた。

(3) 「振り返りで得られた結果をその後の授業にどう生かしたか」

- ① 毎時間文章による「振り返り」を実施し、生徒が授業で学んだことや更なる指導が必要な点を教師が把握し、次時の授業で補足説明等することができた。
- ② 授業で「振り返り」の時間を設けて、「学習カード」やワークシート等に自己の学びや活動の様子、グループの反省等を記載し互いに発表させることで、次時の授業を改善しようとする生徒が増えてきた。
- ③ ワークシートと「振り返り」を一体化させ、付箋に質問や感想等を書かせて回収したことで、質問や感想等を分析してフィードバックを行うことが容易になり、授業の補足や活動内容の難易度の修正を適宜授業に取り入れることができた。

#### 4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① ICT を活用し、インターネット等から得た最新の情報も含めた資料を提示したことにより生徒の学習意欲や課題意識を高めることができた。
- ② 課題解決に向け、スモールリーダーを中心にグループ内で互いに協力し、試行錯誤を重ねたり様々な意見を出し合ったりしながら学びを深めることができるようになってきた。また、思考を促す発問を意図的に授業で取り上げたことで、生徒同士の学び合いを活性化させ、より深い学びへとつなげることができた。
- ③ 文章による「振り返り」が定着し、「振り返り」で得られた反省や疑問点をフィードバックしたり授業改善に役立てたことで、生徒の授業に関する不安や疑問を解消するとともに教師自身の授業力向上に生かすことができた。

(2) 研究の課題

- ① 深い学びにつなげる資料を収集するには、時間と労力を要する。教員の負担を軽減するため、教員間の情報交換を密にし、かつ資料の共有をより一層進めていく必要がある。
- ② グループ学習では、人数にこだわることなく、隣同士やグループの枠を外した自由な話し合いなど様々な学習形態を授業に取り入れ、課題に応じた、より効果的な学習形態を模索していきたい。
- ③ 「振り返り」について、事後の活用を考慮し、付箋を使用するなど効率の良い方法を検討・実践し、より細かなフィードバックを行い生徒に還元できるよう改善する必要がある。